

国語

(1～13ページ)

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答は解答用紙にマークしなさい。
ただし、使用しない解答欄があります。
- 3 解答用紙に受験番号と氏名を記入しなさい。
- 4 受験番号は、下記の「受験番号欄記入例」に従って正確にマークしなさい。
試験時間は六〇分です。
- 5 試験開始後、問題用紙に不備(ページのふぞろい・印刷不鮮明など)があったら申し出なさい。
- 6 問題の内容についての質問には、いつさい応じられません。

解答用紙の受験番号欄記入例

数字の位置	受 験 番 号				
	万	千	百	十	一
	2	/	9	0	/
0		0	0		0
1	1		1	1	
2		2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9		9	9

数字の位置に注意してマークしなさい

マーク式解答欄記入上の注意

1. 解答は、HBの黒鉛筆を使用して丁寧にマークしなさい。
《マーク例》
良い例
悪い例
2. 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで、きれいにマークを消し取りなさい。
3. 所定の記入欄以外には、何も記入してはいけません。
4. 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

I 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

かなり前のことになるが、インドの首都デリーから長距離バスに乗って、ウッタラーカンド州のサンロク^アを目指した。途中、菜の花が咲きみだれる畑のそばでバスを降りて、休憩をとることになった。そこは人気の休憩地点なのか、他にも車を降りて佇^{たず}んでいる人たちがいたのだが、ふと気がつくと五、六人の男性が一行に並んで、凍りついたように私を凝視している。私が見返しても、まったく表情を変えることなく無言のまま、まじまじと見つめつづける。それまでも、初めて訪れた土地で珍しげに見られたり、執拗^{しつよう}に声をかけられたりしたことはあったが、そんな風に穴のあくほど見つめられた経験はなかった。まるで理解できない、人ではないものを見ているかのような。あの凝視は、いつとき私を〈物^{オブ}Ⅱ対象^{ジェクト}〉に変えていた。

憑依^{ひょうい}やアニミズムを主題とする人類学的研究では、パースペクティヴの交換や変容について、さまざまな考察がなされてきた。まなざしのやりとりは自己と他者の関係性をつくりだすものだが、他者のパースペクティヴを引き受けることは、部分的に相手になりかわることをも意味する。そしてそのとき、人がなりかわる相手は人間であるとは限らない。

たとえばエドワード・ヴィヴェイロス・デ・カストロは、アメリカ大陸先住民社会におけるパースペクティヴの交換について論じている。ある動物になりかわることを通して、シャマンは人間と人間ならざるものとの間を行き来し、動物たちと交流する。戦士もまた、あるパースペクティヴをもつ他者として敵を主体化し、彼と同一化することによって相手を内側から捕える。だがそれは、危険な行為でもある。他者のパースペクティヴを引き受けることで、人は自分自身を見失い、相手に呑^のみこまれてしまうかもしれない。シベリアの原

野で、獲物である動物になりかわる狩人^{かりやうど}の経験について論じつつ、ウィラー・スレフはそう指摘する。獲物を狩るために、^①だから狩人は相手のパースペクティヴを身につけると同時に、再帰的な自己意識を維持しておかなくてはならないのだ。

こうした人類学的知見と符合することを、精神病理学者のヴォルフガング・ブランケンブルクが述べている。人が世界内存在として生きていくためには、他者のパースペクティヴを引き受けることが必要になる。ただし、相手のパースペクティヴに完全に呑みこまれることのないように、人は自己と他者のパースペクティヴとともに作動させておかななくてはならない。「パースペクティヴとタワムれること^イ」。そのことを、彼はそう表現する。

憑依^{ひょうい}という現象は、人と神霊とのパースペクティヴの交換でもある。南インドの神霊祭祀^{さいし}で憑坐^{よりまし}を務めるサティシユは、憑依の経験についてつぎのように語っている。

そのとき、私たちの意識は完全に神霊に集中しています。それは、魅惑^(akarsane)と呼ばれる瞬間です。三秒ほどの間、私たちの魂は神霊のも^ととへゆきます。「……」数秒ののち、私たちは意識をとりもどして、人び^とを見分けることができます。

神霊の力に呑みこまれる魅惑の瞬間を経て、憑坐は彼自身の意識を保ちながらも神霊になりかわる。そのとき、人と神霊のパースペクティヴは絡みあい、タワムれあう。

ヒンドウの神々と信者とのまなざしの交換について考察したのは、宗教学者のダイアナ・エックだ。神像と見つめあうことを通して、信者は神からの祝

福を受けとり、神と一体化する愉悅を感じる。そこで生じているのは、〈見る―見られる―見られている私を見る……〉というまなざしの X であり、能動と受動の絡みあいである。

自己と他者のパースペクティヴの交換には、こんな風に愉悅と危うさの両方がつきまとう。相手に吞まれまいと自分を保つことと、相手に吞まれないという欲望との葛藤^②。まなざしが誘惑と深く関わっているのは、それゆえだろうか。まなざしのやりとりは情動のやりとりでもあり、自他の境界の揺らぎをみちびく。それはまた、他者があるからこそその自己の生成でもある。こうしたパースペクティヴの交換と変容についてブランケンブルクは、人が世界と自身に対して、何らかの「関係をもつ／ふるまいをする (sich verhalten)」という可能性そのものであるとした。

ひるがえって、ロボウで私に投げかけられたような一方的な凝視は、相互的な関係の生成を拒絶するものだ。凝視するまなざしによって、私は関係性の中に導き入れられるのではなく、〈物Ⅱ対象〉として有徴化され、逃げ場をなくす。一方で、まなざす者が私の視線を受けとめることはなく、彼らは無徴のまま、ただ見つめつづける。

こうした非対称的な関係に関して想起されるのは、ジェレミー・ベンサムが考案した〈一望監視施設^{パノプティコン}〉だ。ミシェル・フーコーが読み解いたとおり、独房の中で、姿の見えない監視人の視線を恐れる囚人は逃げ場をなくし、監視する者のまなざしを内面化するようになる。見る者と見られる者。無徴の看守と有徴化された囚人。そうした関係は、まなざしの交錯が生みだす危うくも親密な関係性とは Y である。その不均衡さは、たしかに権力の所在に関わっているのだが、ただ、まなざす者が常に権力の側にあるとは限らない。

ジョージ・オーウェルは、大英帝国の植民地だったビルマに警官として赴任

していた。あるとき彼は、町で暴れている象をどうにかしてほしいと依頼される。とりあえず様子を見に出かけたオーウェルは、彼が象を撃つのを待ちかまえる群衆のまなざしの中で、のっぴきならない事態に追いこまれる。

「……」その瞬間、私はちらつと、ついて来た群衆を見た。それは巨大な、最低二千人はいる人波で、刻々と大きくなってきていた。「……」手品を演じようとしている手品師を見るみたいに、彼らは私を見ていた。「……」そして私は一気に悟った。やはり象は撃つしかないだろう。人々は私にそれを期待しているのであり、私はそうするしかないのだ。

（『象を撃つ』）

植民地官吏として、オーウェルはこの群衆を支配する側にあった。しかしいま、人びとの視線によって逃げ場をなくし、突き動かされているのは彼の方だ。支配者をホウイ^エする群衆のまなざしが日頃の権力関係を一時的に逆転させたのではなく、それこそが植民地の白人たちを動かすものであったことを、オーウェルは鋭く感知している。

他者とのパースペクティヴの交換を通して自己はつくりだされ、縷々^{繰る}変転していく。その時々、私は相見^{あいま}える他者となり、能動と受動は縷々^{繰る}あわされ、狩ることと誘惑は同義になる。対して、生きている相手の顔を奪い、〈物Ⅱ対象〉と化す視線こそが、相手を物として簡単に消し去りもするのだろうか。だとすれば、まなざしの往還を断ち切られた人間同士の関係は、互いのパースペクティヴを交錯させ、誘惑しあう人と人ならざるものとの関係よりも、よほど遠いものであるのかもしれない。

（『石井美保『めぐりながれるものの人類学』より。一部改変』）

【注】 エドワード・ヴィヴェイロス・デ・カストロ——ブラジルの人類学者。

ウィラー・スレフ——レーン・ウィラー・スレフ。デンマークの人類学者。

憑坐——神霊がよりつく人などの対象物のこと。

サティシユ——サティシユ・クマール。インド出身のイギリスの思想家。

ジェレミー・ベンサム——イギリスの哲学者・経済学者・法学者。

ミシェル・フーコー——フランスの哲学者。

ジョージ・オーウェル——イギリスの作家。

問一——線部ア～エのカタカナの部分と同じ漢字を用いるものを、次の中から

それぞれ一つずつ選びなさい。

1 ア 1 住所をトウロクする。

2 富士のスソノに広がる樹海。

3 ロクシヨウ色の樹皮。

4 丘のフモトにある家。

2 イ 1 ギタイによつて色を変える昆虫。

2 チキユウギを見て楽しむ。

3 シエイクスピアのギキョクを上演する。

4 高いギリヨウを持つ職人。

3 ウ 1 裁判をボウチョウする。

2 結果を知つてボウゼンとする。

3 ボウキヤクのかなたに去つた。

4 エ 4 脇道からトウボウする。

1 これまでの苦勞がスイホウに帰す。

2 ホウモン医療を依頼する。

3 ルールを破りチームからホウチクされる。

4 地域のホウカツ支援センターに行く。

問二 空白部X・Yに入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

5 X 1 重層化 2 相対化

3 実体化 4 一元化

6 Y 1 相乗的 2 対照的

3 親和的 4 相補的

問三 線部の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

7 1 飛躍的ではあるが 2 反対に

3 思い返せば 4 それゆえに

問四 線部①の理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

8 1 対峙した相手とパースペクティヴを絡ませ合うことの快楽に溺れ、

狩猟の目的を忘れてしまうから。

2 生きている相手に対して〈物Ⅱ対象〉だとする視線を持つことで、敬意を忘れぞんざいに扱うことになるから。

3 主体化した他者のパースペクティヴを引き受けることは、自分を見失い、相手に呑みこまれてしまうという危険性があるから。

4 狩猟では獲物とどのように向き合うのが重要であり、一方的に見ることによって相手より優勢であることを誇示しなくてはならないから。

問五 線部②のように著者が考える理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

9 1 一方的に凝視するまなざしによって、知らず知らず相手を支配し関係性の中に導き入れているから。

2 自己と他者との視線の交換は、自他の境界を曖昧にし、相手に呑まれたという欲望を喚起し惑わせるような危うさがあるから。

3 まなざすことによって神霊の力に誘いこまれ、魅惑の瞬間を経て、いつのまにか相手になり変わるから。

4 他者を自分の領域に誘いこもうとするために、自分のものの見方や価値観がゆらいでしまうから。

問六 線部③の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

10 1 群衆を支配する側の植民地官吏が、人びとの視線によって行動せざるをえなかったということ。

2 植民地を統治する側の白人警官が、群衆の暴動によって規律を破らざるをえないような状況になること。

3 群衆が団結して正論を叫ぶことで、いとも簡単に支配と被支配の関係を逆転させてしまったということ。

4 群衆は集団として恐怖を与えることで、支配する側の植民地官吏であつても操ることが可能だということ。

問七

線部④の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

11

1 まなざしの往還が行われても、どちらかが相手を〈物Ⅱ対象〉として捉えているかぎり心の距離は近づくことはない。

2 互いを見つめあうことを通して神からの祝福を受けとり、他者と一体化する愉悅を感じるが、一方的な場合には、より複雑な快楽を感じることができる。

3 パースペクティヴの交換が行われない一方的な視線では、たとえ人間同士であっても相互的な関係は生成されず、相手との親密な関係は生じることではない。

4 自己と他者とお互いのパースペクティヴとともに作動させたとしても、相手に呑みこまれないための制御がはたらき、むしろ相手との距離は離れてしまう。

問八

問題文の内容と合っているものを、次の中から二つ選びなさい。

12 13

1 対話によって自己と他者との関係性は作り出され、人として存在を認められることになる。

2 憑依という現象は、人と神霊とのパースペクティヴの交換であり、神霊の力に呑みこまれる快楽を経て、自身の意識を保ちながらも神霊になりかわることである。

3 一望監視施設にいる囚人は、監視人が姿を見せなくとも、その視線を内面化して恐れるようになる。

4 憑依するということは、憑坐を務める人間の身体を使って、神と人との視線の交換をすることにほかならない。

5 植民地で警官をしていたオーウェルは、二千人以上に膨れ上がっていく群衆の期待を裏切って象を撃つことにした。

6 人が世界内存在として生きていくためには、いったん他者のパースペクティヴに完全に呑みこまれ、自分ではないものになることの愉樂を経験することが必須である。

Ⅱ 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

北欧の刑務所——例えば、ノルウェーのハルデン刑務所やスウェーデンのコルマーデン刑務所など——は、その環境の快適さが、しばしば驚きと共に紹介されている。

日本でも、これなら自分のアパートや職場よりも遥かに恵まれている、というタンセイ^アが漏れ、こんなに贅沢^{ぜいたく}なら、^①刑務所としての意味をなしていないのではないか、といった疑問の声も聞かれる。

犯罪者に対する人道的な扱いという点では、それらの国々は日本よりも遥かに進んでいるが、では、具体的に何が人道的なのかというと、一つは規律／訓練のソフト面であり、もう一つは、居住空間のハード面である。そして、後者について、もっと具体的に言うならば、食事と並んで、重要なのが建築とプロダクト・デザインである。

実際、刑務所や拘留所、留置所が人に催させる忌避感情の実体は、多くが建築とプロダクトの粗悪さに負っている。トイレは不潔でプライバシーがなく、ウォシュレットなど望むべくもない。煎餅布団の寝心地は悪く、照明は暗くて、椅子にせよ机にせよ、凡そ、精神と肉体にストレスを与えないものはない。それらは、中世の拷問器具のようなあからさまな格好はしておらず、製造会社も意図的に受刑者を苦しめようとして作ったわけではないが、「懲罰性」に充ち満ちている。出所後の元受刑者たちが心から喜ぶのは、美味なる食事や人との自由な交流と並んで、快適なソファや広々とした椅子とテーブル、明るい照明に清潔で静かな浴室、……といった居住空間だろう。

もし、心あるプロダクト・デザイナーに、刑務所を人間がいる場所として適切な状態にまで引き上げてほしいと依頼したならば、彼らは必然的に、ノル

ウェーやスウェーデンのような刑務所の方向性を考えざるを得ないだろう。しかし、日本で仮に、刑務所に配置されたプロダクトを、無印良品やIKEAの水準にまで向上させるといった決定がなされたならば、これはもうデザインの改善といった領域を超え、倫理的・政治的な問題として大きな議論を呼ぶこととなる。世論は恐らく、それに関わり強く反発するだろう。何故なら、それらのプロダクトは、身体に対する「懲罰性」を大幅に軽減してしまうからである。今日の刑罰観は、基本的に応報刑論ではなく、教育刑論である。「懲罰性」は、従って、本来、必要なのはであり、だからこそ、^②北欧の刑務所は快適な居住空間を整備している。

にも拘らず、人々が、刑務所の建築やプロダクトのデザインの向上を許せないのは、未だに^{いま}応報刑論に囚^{とら}われている、というだけでなく、自身の日常的な居住空間が、刑務所に劣るという理不尽に、どうしても納得が行かないからである。

それはその通りだろう。

人々は、狭いアパートの寝心地の悪いベッドや、職場の腰が痛くなる椅子に、やはりプロダクトの「懲罰性」を感じ取っている。しかし、一体、誰が何の理由で科す懲罰なのか？ 彼らは何も違法なことではない。そうした身体的なストレスは、まったく理不尽なはずだが、それが避けられないのは、端的に言って X のせいである。つまり、生活環境の全般に於いて、「懲罰性」の高い、粗悪なプロダクトに取り囲まれているからである。逆に言えば高級な家具などは、快適さという「報酬性」が高いということになる。

そう考えた時、人々が日常的に経験している粗悪なプロダクトの「懲罰性」は、まさしく、資本主義体制下で、「貧困」に陥ってしまったことへの^①ムクいと受け止めるより他はない。これはまったく痛ましい、新自由主義的な、「自

「己責任論」的な解釈であり、こうした状況下で、人々が刑務所の受刑者の住環境の改善を許容できないというのは、ある意味、無理もないことである。実際、それを実現している北欧諸国は、同時に高福祉国家なのである。

苦痛を始めとするストレスは、身体の内側から発するものでありながら、主体に対しては極めて他者的であり、また、非個人的なものである。

粗悪な椅子に座っていて、常に腰に痛みを感じている時、人は決して、十分に目の前の相手との会話や食事、仕事に集中することが出来ない。痛みは常に、そんなことよりも、腰の状態を気にするべきだと、私たちの意識に訴えかけてくる。

ところで、その腰の痛みとは、まったく「Y」なものであり、だからこそ、人間一般に普遍的な症状として、医学が治療対象とすることが可能である。

つまり、プロダクトの中にある「懲罰性」^③は、私たちが個性的であることを常に妨害し続けているのであり、労働の自己疎外というマルクスのテーゼは、資本家による搾取という観点とは別に、劣悪な労働環境の「懲罰性」による非個性化への着目が不可欠なはずである。

どれほど自己実現的な仕事であろうと、粗悪な椅子と机でそれを強いられ続けるならば、そのストレスの「懲罰性」は、絶えず人を自己から疎外し続けるだろう。病気が、決して十分に仕事に没頭させてくれないのと同様である。

それは実のところ、自己への集中を邪魔するだけでなく、他者への配慮も同時に粗略にさせてしまう。疲れ切つて、体のあちこちが痛い時には、他人の世話を焼く余裕などないのである。

刑務所の受刑者は、劣悪な建築とプロダクトに取り囲まれ、苦痛を感じる時間が長ければ長いほど、実際には、自分の犯した罪と向き合い、被害者の境遇

を思いやる時間を減らされてしまう。これは「懲罰性」の完全な逆効果である。彼らにとって、喫緊の問題は、真冬の薄い布団の寒さと堅さであり、トイレの不潔さであり、狭い鉄格子の室内に居続けることから来る背中や腰の痛みなのである。

私たちは、この世界にある時に誕生し、やがて死を迎えるまでの貴重な時間を、出来れば幸福に過ごしたいと願っている。その間に、精神的・身体的苦痛を、生きていること自体の罰のように感じ続けなければならないというのは、まったく以て理不尽である。殊にその「懲罰性」が、「貧しいことは罪である」と言わんばかりに、貧困の度合いに応じて、プロダクトの中でゾウフクしてゆく、^ウというのは、倫理的にも政治的にも許されないことである。

プロダクト・デザインの理想像は、個々に多様であり、とても一つには定められまいが、人間が自己に深く集中し、他者を思いやり、自由に活動する上では、それを妨げることなく促進してくれることが重要である。快適な椅子や文房具、カトラリーや家電などは、使用感に一種の快感がある。それを購入することが出来る現状への「報酬性」に富んでいる。美的な意匠は、精神的な満足を与え、周囲に対して自身の趣味をアピールしてくれる。しかし、モノと人との共存という意味では、プロダクトは、その存在を束の間、忘れさせてくれるほど、私たちを解放してくれるものでなければならぬ。それほどに、私たちの身体がストレスを感じないとするならば、それはプロダクトが、徹底して身体^エの姿勢と運動とに最適化されているからである。

私はストレスの中でも苦痛に特にシウテン化して語ったが、使いにくさによるイライラや審美的な意味での不快感とて、基本的にはその延長上で語ることが出来るはずである。

私たちは、どのような境遇にあらうとも、せめてプロダクトの存在から懲罰

的なストレスを被らずに済む、デザイン水準の全体的な向上を求めている。そしてそれが、更にその所有・共有に報酬的な喜びまで与えてくれるのであるならば幸いである。しかし、真に健康なプロダクトとの関係に於いては、^④デザイナーは、自らの創作物がユーザーの意識の外側に消滅する瞬間をこそ、追求すべきなのかもしれない。

プロダクト・デザインは、そうして、やはり一定の倫理性と政治的課題を負っているのだと私は思う。

（平野啓一郎『文学は何の役に立つのか？』より。一部改変）

問一——線部ア～エのカタカナの部分と同じ漢字を用いるものを、次の中から

それぞれ一つずつ選びなさい。

14 ア 1 コンサートはセイキョウだった。

2 校歌をセイショウする。

3 教科書をセイドクする。

4 メイセイを博する。

15 イ 1 合格のキツポウを待つ。

2 ネンポウ制で働く。

3 ホウニン主義の教育。

4 ホウメイ帳に書き入れる。

16 ウ 1 最後の章でフクセンを回収する。

2 ゲンブクの祝いに用いた装束。

3 ゼンブクの信頼を寄せる。

4 フクジテキナ役割を担う。

17 エ 1 文献をショウリョウしてレポートを書く。

2 問題の解法をショウジュツする。

3 権力をショウアクする。

4 ショウソウ感に駆られる。

問二 空白部X・Yに入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

18 X 1 社会の規律 2 経済的な事情

3 法制度の不備 4 倫理的な問題

19 Y 1 非人道的 2 習慣的

3 没個性的 4 個別的

問三 線部の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

20 1 冷静に考えるべき 2 差し迫って重要な

3 生活の基本に関わる 4 利益を優先する

問四 線部①のような声が聞かれる理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

21

1 刑務所は人間の居住空間として適切な状態であることより、「懲罰的」な場所であるべきだと考えるから。

2 刑務所は日常の暮らしを基準にして、それよりも生活水準は低くなければならないという法があるから。

3 刑務所という場所に対して忌避感情を抱き、日常の快適な暮らしを維持するよう努力することが重要と考えるから。

4 刑務所に入った人は福祉対象からは外れてしまうような法になっているから。

問五 線部②の理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

22 1 北欧では、懲罰が厳格化されている一方、刑務所で人間らしく快適に過ごすことが重要だと考えられているから。

2 北欧では、受刑者が人間らしい生活を送りながら、罪を反省し、社会復帰を目指す教育を施すことが当然と考えられているから。

3 北欧では、美的なデザインが精神的な満足を与えるという考えが浸透しているので、刑務所であつてもそこで働く人の環境は重視されているから。

4 北欧では、人道的な観点から、受刑者が健康状態を維持したまま長い時間刑務所にとどまることが重要とされているから。

問六 線部③の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

23 1 生活環境の全般において、粗悪なプロダクトに取り囲まれていることによりストレスを感じ、人が自分らしさをなくしてしまうということ。

2 自分の体に合っていないプロダクトによって苦痛に慣れてしまうと、自分にとってどのような状態が快適であるのかわからなくなるということ。

3 思想のない建築やプロダクト・デザインに取り囲まれていることによって、自分が本当に望むものを選択できなくなること。

4 粗悪なプロダクトの中で働かされるという懲罰を受けているので、労働時間外での自分らしい楽しみへの意欲を失ってしまうということ。

問七

24

線部④の理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 1 自分の生活水準とプロダクトの価値が見合っており、所有・共有に報酬的な喜びを感じるのであればそこにデザイン性は必要ないと考え
るから。
- 2 プロダクトは、それを誰がデザインしたのかという関心を持たれ、
ユーザーの審美眼を向上させることが理想的だと考えるから。
- 3 理想的なプロダクトとは、その存在を忘れるほど身体に最適化され、
ストレスを感じることなく自分を解放してくれるものであるべきだと
考えるから。
- 4 誰もが快適だと感じるプロダクトを完成させ、新しいデザインを必
要としない商品を定番として安価で提供することが、ユーザーにとつ
て最も良いことだと考えるから。

問八

25

問題文の内容と合っているものを、次の中から二つ選びなさい。

26

- 1 日本では、刑務所に心地よいプロダクトを配置すると、更生して社
会生活を送る意欲を削いでしまうので、あえて居心地の悪い環境を作
り出している。

- 2 プロダクト・デザインは、デザイナーがどのような倫理性を持ち、
政治的な立場をとるのかを誰にでも理解出来るよう表現されるべきで
ある。
- 3 自分を取り囲むプロダクトにより快適な生活を送ることは、自身の
精神や健康を守るばかりではなく、他者を配慮する気持ちももたらす
ことになる。
- 4 経済的に豊かであれば、職場で支給されるのではなく、自分の好
きなプロダクトを報酬から購入することが出来るので、健康で趣味的
な生活を送れるようになる。
- 5 職場で粗悪な椅子に座り、常に腰に痛みを感じていると仕事に集中
することが出来ず、そのような状況を生み出した社会に不満を抱き、
富裕層を攻撃するようになる。
- 6 粗悪なプロダクトにより感じる日常的な身体的苦痛を自分の責任だ
と捉える考え方が、刑務所に暮らす受刑者の生活環境の改善を阻んで
いる。

問九

この文章の著者である平野啓一郎は『日蝕』で芥川龍之介賞を受賞してい
る。次の中から芥川龍之介の作品を一つ選びなさい。

27

- 1 杜子春
- 2 李陵
- 3 浮雲
- 4 行人

Ⅲ 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

〔以下は、紫式部が自身の宮中での日常やふるまい方について記した文章である。〕

大きな 一よろひに、ひまもなく積みて侍るもの、ひとつには、古歌、物語のえも言はず虫の巢になりたる、むつかしくはひ散れば、開けて見る人も侍らず。片つ方に、書ども。わざと置き重ねし人も侍らず なり にし後、手触るる人もことになし。

それらを、^①つれづれせめてあまりぬる時、一つ二つ引き出でて見侍るを、女房集まりて、「お前はかくおはすれば、御幸ひは少なきなり。なでふ女か真名書は読む。昔は経読むをだに人は制しき」と、しりうごち言ふを聞き侍るにも、「物忌みける人の行末、命長かめるよしども、見えぬためしなり」と、言はまほしく侍れど、思ひぐまなきやうなり、^③ことはた、さもあり。

よろづのこと、人によりてことごととなり。誇りかにきらきらしく、心地よげに見ゆる人あり。よろづつれづれなる人の、まぎることなきままに、古き反古ひきさがし、行ひがちに、口ひひらかし、数珠の音高きなど、いと心づきなく見ゆるわざなりと思ひ給へて、心にまかせつべきことをさへ、ただ、わが使ふ人の目にはばかり、心につつむ。まして人の中にまじりては、言はまほしきことも侍れど、いでやと思ほえ、心得まじき人には、言ひて益なかるべし。物もどきうちし、われはと思へる人の前にては、うるさければ、もの言ふことももの憂く侍り。ことに、いとしも物のかたがた得たる人は難し。ただ、わが心の立てつるすぢをとらへて、人をばなきになすなめり。

それ、心よりほかのわが面影を恥づと見れど、えさらず、差し向かひまじり

ゐたることだにあり。しかじかさへもどかれじと、恥づかしきにはあらねど、むつかしと思ひて、惚け痴れたる人にいとどなりはてて侍れば、「かうは推しはからざりき。いと艶に恥づかしく、人見えにくげに、そばそばしき様して、物語好み、よしめき、歌がちに、人を人とも思はず、ねたげに見落とさむものとなむ、皆人々言ひ思ひつつ憎みしを、見るには、あやしきまでおいらかに、^④異人かとなむおぼゆる」とぞ、皆言ひ侍るに、恥づかしく、人にかうおいかけものと見落とされにける、とは思ひ侍れど、ただ、これぞわが心と慣らひもてなし侍る有様、宮の御前も、「いとうちとけては見えじ、となむ思ひしかど、人よりけにむつまじうなりにたるこそ」と、のたまはするをりをり侍り。くせぐせしく、やさしだち、恥ぢられ奉る人にも、そばめたてられで侍らまし。

〔紫式部日記〕より。一部改変

【注】 〇一よろひ——家具・調度品などを一揃えとして数える語。

〇わざと置き重ねし人——紫式部の亡くなった夫を指す。

〇真名書——漢文で書かれた本。

問一 〰線部ア―ウの解釈として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

28 ア 1 味気なく

2 跡形もなく

3 気味が悪く

4 崩れがたく

29 イ 1 非難されまい

2 理解してもらえまい

3 真似できまい

4 思い通りになるまい

30 ウ 1 無知を装って

2 目立ちたがって

3 目上の人に媚びて

4 風流ぶって

問二 〰に入る語として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

31 1 閑伽棚

2 厨子

3 御帳台

4 折敷

問三 〔なり〕の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

32 1 伝聞・推定の助動詞

2 断定の助動詞

3 形容動詞の活用語尾

4 動詞

問四 〰線部①の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

33 1 対人関係で何となく気詰まりな時。

2 あまりにも所在なくて仕方のない時。

3 夫の遺品を無にして罪悪感に苛まれる時。

4 あまりにも退屈すぎて里下がりにした時。

問五 〰線部②の指示内容として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

34 1 常日頃から身边に本を一・二冊置いて読むこと。

2 夫を亡くして喪中であるにもかかわらず本を読むこと。

3 漢字ばかりで書かれた本を読むこと。

4 虫の巣になっている本を平気で触って読むこと。

問六

——線部③の心情として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

35

1 世間で良くないとされていることはしないほうが良いという考えにも一理あると思っている。

2 不吉な行動を慎むことと人の寿命は無関係だと反発を感じている。

3 世間で良くないとされていることはしないほうが良いという縁起担ぎの考え方に呆れている。

4 不吉な行動を慎むべきだと勧める人々に反論するのはみっともないと考えている。

問七

——線部④の理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

36

1 紫式部は老いているのに若々しい考えの人物だとわかったから。

2 紫式部は才気走った人物だとわかったから。

3 紫式部は性格がおだやかでおっとりした人物だとわかったから。

4 紫式部は漢籍に通じた人物だとわかったから。

問八

——線部⑤の指示内容として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

37

1 気さくでつき合いやすいと思われること。

2 異国の人と思われること。

3 人から噂うわさされること。

4 ひょうきん者と思われること。

問九

問題文の内容と合っているものを、次の中から二つ選びなさい。

38

1 紫式部は、数珠を持つて読経をする姿を女房たちから批判された。

39

2 紫式部は、今は中宮ととても親しい関係にある。

3 紫式部は、複雑な人間関係の中にあつて女房の前では本心を言えた。

4 紫式部は、周囲の人と極力対立しないようにふるまっていた。

5 紫式部は、物忌みをしなかったために夫を亡くしてしまった。

6 紫式部は、本心を誤解なく相手に伝えようと常に腐心していた。

問十

『紫式部日記』よりも前に成立したと考えられている作品を、次の中から一つ選びなさい。

40

1 更級日記

2 蜻蛉日記

3 方丈記

4 太平記

